

貿易投資相談ニュース

2025 年 2 月 Vol.283

多摩信用金庫 海外事業支援部 住所：〒190-8681 東京都立川市緑町 3-4

<https://www.tamashin.jp/>



多摩信用金庫

今月の見出し

1. 世界の主要ニュース
2. たましん公表外国為替相場
3. 【たましん駐在員レポート】～インドを訪問して～



世界の主要ニュース

ベトナム初の地下鉄 都市鉄道 1 号線開業（ベトナム）

ベトナム南部のホーチミン市で初の都市鉄道 1 号線（ペンタイン～スオイティエン）が 2024 年 12 月 22 日に開業した。当該鉄道システムには JICA により日本の標準規格が採用されており、安全装置を備えた日本の車両が導入されている。ホーチミン市初の鉄道であることに加え、多くの住宅や商業施設のある都心部の地下を 2.5 km 通るベトナム初の地下

鉄でもある。当初計画から 17 年経過しており、開業まで何年も遅れた経緯はあるが、ベトナム第一の商業都市であるホーチミン市は近年の経済発展や人口増加に伴い、年々深刻化する交通渋滞や大気汚染の問題を抱えており、本事業による緩和が見込まれている。インフラ整備によるベトナムの更なる発展が期待されている。

2024 年の GDP 成長率 5.0% と政府目標達成（中国）

中国国家統計局は 2025 年 1 月 17 日に 2024 年の実質 GDP 成長率を 5.0% と発表し、政府目標として掲げていた「5.0% 前後」を達成した。主要経済統計をみると第一次産業（農業、林業、漁業など）が 3.5%、第二次産業（工業や建設業など）が 5.3%、第三次産業（商業、金融業、サービス業など）が 5.0% の伸び率であった。社会消費財小売総額は前年比で 3.5% 増、そのうち商品小売額は 3.2% 増、飲食業収入は 5.3% 増であり商品小売額の項目別では、消費財の買い替え支援策の影響もあり、

家電製品・通信機器が高い伸び率となった。また、2024 年の GDP 成長率を支えたのは輸出であり、米国の関税引き上げを見込んだ駆け込み需要からも輸出額（ドル建て）は前年比 5.9% 増（3 兆 5772 億ドル）と大きく伸びたことが牽引している。

米国のトランプ大統領就任後の米中の貿易摩擦の激化懸念や中国の長期化する不動産不況など、中国政府が今後どのような政策対応をとっていくのか注目されている。

12 月の貿易赤字は 11 月より減少となり輸出が後押し（インド）

2025 年 1 月 15 日、インド商工省が 2024 年 12 月の貿易収支について 219 億ドルの赤字と発表した。インドの貿易赤字は 2020 年 6 月以降から続いているが、輸出が増加したため、2024 年 11 月の 378 億ドルの赤字と比較すると減少している。2024 年 12 月の輸出額の内訳をみると、エンジニアリング製品は 108 億 4,288 万ドル（前年同月比 8.4% 増）、電子製品 35 億 7,763 万ドル（35.1% 増）、医薬品 24 億 9,255 万ドル（0.6% 増）などが増加した。輸入額に関しては、輸入額全体の約

25% を占める石油製品・原油が 152 億 7,092 万ドル（前年同月比 2.2% 増）のほか、金が 47 億 213 万ドル（55.4% 増）、電気・一般機械 46 億 9,647 万ドル（11.8% 増）などが増加した。

物価高騰と高水準インフレなど課題も多いインドであるが、GDP 世界 5 位の経済大国であり、世界情勢においてインドの存在感は高まっている。今後インド国内の動向はもちろんのこと、世界へ与える影響についても注視されている。

たましん公表外国為替相場

（2024 年 12 月 2 日～2025 年 1 月 8 日、TTS レート、単位：円）

日付	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/16	12/17	12/18
米ドル	151.22	150.96	150.82	151.38	151.06	150.85	152.54	152.86	153.40	154.02	154.92	155.27	154.74
ユーロ	159.76	158.83	158.83	159.60	160.24	159.73	161.37	161.42	161.53	161.82	163.39	163.99	162.92
日付	12/19	12/20	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/30	1/6	1/7	1/8	最安値	最高値
米ドル	155.94	158.95	157.72	158.45	158.38	158.43	159.18	159.18	158.73	159.22	159.09	150.82	159.22
ユーロ	162.25	165.15	164.93	165.17	165.29	165.16	166.29	166.39	163.93	165.77	165.05	158.83	165.77

最新の外国為替相場はたましんホームページをご確認ください。（https://www.web-tamashin.jp/ex_rate/）



【たましん駐在員レポート】

～インドを訪問して～

たましんでは2024年4月～12月まで海外トレーニーを行いました。第5弾となる今回はインドの基本情報や最新の経済情勢等の調査を行い、筆者の視点でご紹介いたします。



基本情報

インドの正式名称は「インド共和国」であり、面積は約329万km²、人口は約14億人となっています。公用語はヒンディー語ですが、憲法で承認されている州の言語が21種類あります。宗教については国民の8割がヒンドゥー教徒とされています。

インドの特徴

インドの特徴として複数挙げられますが、まずは人口が世界一位という点です。昨年、中国を抜いて世界一の人口を誇る国となり、現在約14億3千万人いるといわれています。また2040年代まで人口ボーナス期が続くといわれており、グローバルサウスの一角として今後も大幅な経済成長が期待されている国です。一方で、インフラ環境等は発展途中であり、交通渋滞、大気汚染、電気・水道の未整備など社会課題は多くあります。

食文化においては日本とも大きく異なっています。インドでは上記で記載した通りヒンドゥー教徒が多く信仰心の強弱も人によって異なりますが、基本的には神聖な動物とされている「牛」、不浄の動物とされている「豚」は食べません。その為、鶏肉や羊肉、野菜などを中心とした食文化となっているのもインドの特徴です。

最近の経済について

インド経済の特徴として、経済成長率が毎年約6～8%（日本は2%未満）を維持しており、世界でもトップクラスの経済成長を遂げています。現在のインド経済を牽引しているのがモディ首相であり、2014年に初めて就任してから昨年で3期目に入り、2029年まで同政権が続くこととなりました。

モディ政権では Make in India（インドを世界の製造拠点のハブとする為の外国企業の積極誘致）や Digital India（デジタルインフラの整備、電子政府化、経済と行政の効率化）等の様々な政策を掲げており、インド経済は世界からも注目されています。日系企業においては自動車メーカーが好調です。近年、EV車の台頭から日系自動車は海外で苦戦している傾向にありますが、マルチ・スズキ・インディア（スズキ自動車）のインドにおけるシェアは約4割あるといわれており、圧倒的なシェアを誇っています。生産台数も年々増加しており、街中でもスズキの自動車を多く見かけます。

これまで飛躍的な成長を遂げているインドですが、街中のゴミも多く排気ガス等の影響で大気汚染も問題となっています。交通渋滞や電車の混雑具合から人の多さに圧倒され、初めて訪れた方は街中を歩くだけでも苦勞するなど生活環境においてハードな面も多く感じられます。一方で、日本とは異なった文化や思想が感じられる魅力的な国でもあり、ぜひこの機会に足を運んでみてはいかがでしょうか。



<ムンバイ市内>

海外事業支援部 田中

本ニュースは情報提供のみを目的としています。

施策実施等に関する最終決定は、ご自身で判断されるようお願い致します。また、これらの情報は当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて作成されていますが、その正当性・完全性につきましては当金庫が保証するものではありませんのでご了承ください。

本ニュースのデジタル版はこちら

